

展望2020



道路舗装

昨年は前期からの豊富な手持ち工事によって売上高は良かったものの、原油価格の高止まりや物流コストの高騰などが利益の圧迫要因になった。2020年東京五輪・パ

大成ロテック

西田 義則社長

事業所廃止で業務効率化

オリンピック関係の工事は一時的に落ちたが、防災・減災対策や高速道路の4車線化など需要はまだまだ続くと見ている。道路舗装業界にとって明るい一筋は、合材・製品部門は合材リサイクル拠点などを増やす方向で検討中だ。リサイクル用廃材として現場で使用されなかった生コンクリートを受け入れるようにしていく。形態無人工化施工の技術開発を目指す。空港の草刈りを無人化する技術の開発も検討中だ。

新規事業ではSDGs（持続可能な開発目標）の観点から、事業化を調査していた中、小水力発電所の計画を着工にまで漕ぎつけた。バイオマス発電事業への参画も検討している。海外では引き続きベトナムに注力し、F1サーキット場建設に続く事業に着手する。建設では人手不足への対応としてICT（情報通信）化を進め、近い将来は（技術）化を進め、近い将来は

今年には責任と権限の明確化を目的に事業所制度を見直す。事業所を廃止し、本・支社と現場や営業所が直結するも視野に考えていく。